

月別概況（平成27年）水産

1月

生鮮水産物

1kg当たり平均単価 793円

一般近海及び小釣物では、前年よりもヤケイカの入荷が減少し相場堅調、水温の低下が遅れた影響かタイの入荷が多く相場保合。青物では、サバは、千葉等全国からの入荷が安定、価格は昨年と比べて高値。アジは、時期でないので入荷少なめ、サワラ、サゴシは高知や地物の入荷が安定、価格は低め、ブリの季節ではあるが、氷見のブリはなく、長崎のブリが主流である。養殖物では、カンパチ浜値上昇、ハマチ、ブリ類は相場安定。太物では、長崎本よこ入荷始まり日量入荷少なく1500～2500円/kg月の前半は高知産びんよこ800～1300円/kgかつをは入荷ほとんどなく宮崎からとんぼ15kgサイズ入荷あり350～500円/kg全体的に品薄だった。

冷凍水産物

1kg当たり平均単価 819円

養殖バナメイは、年末にかけて徐々に産地価格は、弱含みになっていたが2月の旧正月明けは、アメリカ等の買付も再開すると思われ産地価格は再び上昇すると思われる。

加工水産物

1kg当たり平均単価 530円

1月～2月まで和田島が休漁の為入荷がほとんどない。イカナゴの漁は、香川が1月末から少し漁があったがやや少なめ。

2月

生鮮水産物

1kg当たり平均単価 724円

近海及び小釣物では、悪天候が続き入荷減も相場保合。タコは堅調な動き、先月に続きタイ、カマスの入荷は安定し保合。アオリは入荷減で堅調。青物ではサバ、丸サバともに地物、千葉、三重からの入荷が安定、サゴシ、サワラは愛媛、京都からの入荷も安定していた。ブリは地物が安定、アジは地物や高知産の物が安定しだした。養殖物では、カンパチ浜値上昇傾向止まらず売り悪し、ハマチは浜値変わらず売り並ブリは、浜値下げ気味売り上々。太物では、本よこは入荷まちまち3000円を超える。きめじ、びんは鹿児島、宮崎主体で600～1200円、かつをの入荷も少なく8～12kg大きなサイズは、入荷あるも600～800円、輸入キハダも日量20本程度、小売り筋荷動き悪く700～1500円/kg。

冷凍水産物

1kg当たり平均単価 721円

鰻状況は、シラス漁が不漁で台湾で昨年の10分の1、中国でも半分程度の数字しか池入れされておらず今年も価格は横ばい～為替要因に伴う若干の上方修正という動き。

加工水産物

1kg当たり平均単価 395円

2月前半はいかなごが少なく後半に和田島が取れて値は高値であった。

3月

生鮮水産物

1 kg当たり平均単価 748円

近海及び小釣物では、先月に続き悪天候が続き入荷減も相場保合。タイは、後半にかけて入荷増えるも堅調な動き。タコは、入荷少なく堅調。青物では、サバは、特に三重、千葉からの入荷が安定していて保合、アジは、入荷が安定せず値の高低差があった。サワラは、値が上昇気味だったが後半になり軟調気味。ブリは、先月と比べて軟調気味。養殖物では、カンパチ高値安定相場一定、ハマチ保合、ブリ安定傾向であった。太物では、本よこは、韓国産主体の入荷8～10kg 2000円/kg、3～4kg 2200円/kg、びんよこは、鹿児島、宮崎県産主体 500～900円/kg、かつをも鹿児島、宮崎県産主体500～800円/kg 高知県産は、入荷少なく2kg物 2100円/kg。

冷凍水産物

1 kg当たり平均単価 777円

チリ銀サケは、各社決算月で大きな価格変化もなく委託販売については、日本の現相場では、チリ側がコスト割れになり価格の折り合いもつかず、網引き状態であった。定塩製品については、春需要で荷動き良くなった。

加工水産物

1 kg当たり平均単価 395円

和田島の小女子漁は、全くなく淡路も少なかった。ちりめんは、高知があり、値は高値であった。

4月

生鮮水産物

1 kg当たり平均単価 768円

近海及び小釣物では、タイの入荷は瀬戸内の定置網を中心に底引き釣りとも安定した入荷で相場保合、サワラは、前半は、安定した入荷も後半は、入荷減も保合。青物では、サバは、三重、千葉からの入荷が安定。丸サバが三重から入荷しはじめた。アジは、地物の入荷が安定していたが価格の上下差が大きい。サワラの価格は、1500円程だったが後半下がってきた。養殖物では、カンパチ高値安定相場保合、ハマチ保合、ブリ安値安定。太物では、本よこ韓国産入荷もしっかり売れる、びんよこは、高知、鹿児島、宮崎より入荷多く値崩れした。かつをは、昨年より入荷は、多く型小さいが引合い強い。

冷凍水産物

1 kg当たり平均単価 685円

冷凍生タラバは、日露密漁防止協定執行に伴いロシアから日本への搬入が5月まで昨年度は、2099トン今年は、726トンと1/3近くまで日本への搬入は、減少している、円安で日本へ売るより韓国、中国に流れている。

加工水産物

1 kg当たり平均単価 257円

例年なら4月後半からちりめん漁がとれだすが、今年は、全くなく和田島のバチ漁は、今年に入ってまだ4～5回しか漁に出ていない。

5月

生鮮水産物

1 kg当たり平均単価 744円

近海及び小釣物では、サワラは、瀬戸内を中心に安定した入荷で保合。スズキ、チヌは、入荷安定し軟調な動き。タチウオは、全体的に入荷少なく軟調。青物では、サバ、丸サバ共に三重、千葉からの入荷が安定。アジ類は、地物や高知等が安定。しかし平アジは、月の中頃から急な下落を見せた。サワラ類は、高知等の入荷が安定していて価格保合。イワシ類は、県外の物が安定していたが価格の上下差が大きくなっていった。養殖物では、カンパチ、ハマチ、ブリ共に浜値保合、相場は、安値保合。太物では、高知、宮崎よりきめじ15~20kg前半は、引合い強くしっかり売れたが、後半は、値崩れした。びん、よこも日帰り物は、堅調に売れたが1日物又は、小型サイズは苦しかった。かつをもサイズ小さく浜値だけ高くせり値は、弱保合。

冷凍水産物

1 kg当たり平均単価 849円

高騰が続いていたアフリカ原料のタコが豊漁で一時期に比べ価格が落ちついてきた。半夏生(7月2日)に向けて各スーパーがSサイズの特売を決めている。

加工水産物

1 kg当たり平均単価 358円

前半は、ちりめんの漁が少なかったが、後半にちりめんの漁が増えて値もいつもより高値であった。

6月

生鮮水産物

1 kg当たり平均単価 772円

近海及び小釣物では、釣りのサワラが禁漁になるが瀬戸内の刺し網が安定した入荷で保合、八モは、前年より入荷が遅れ数量は、少ないが保合。青物では、サバは、県外からの入荷が安定していたが地物の物が多く値は、下落。夏に近づくにつれ丸サバの入荷が多くなってきた。平アジは、中旬頃には大量の入荷があり価格は、大きく下落。サワラは、京都等の入荷が安定していて保合。養殖物では、カンパチ、ハマチは、浜値。相場変わらず保合。ブリは、5K台在池減少の為に浜値上昇傾向、売りは保合。太物では、本よこめじ類月中までは、1200~1500円で入荷数量もまずまず安定した。びんよこも鹿児島、高知、徳島産入荷多くスーパー商材として弱含み、かつをは、前半高知産、小型は、値崩れ起こす。気仙沼からの入荷が始まり引き合い強い。

冷凍水産物

1 kg当たり平均単価 720円

インド産養殖エビに限り、現地価格は、下げているが、他産地は、日本向けは、採算コスト割れ懸念のため消極的オファー姿勢になっている。盆商材は、インド産バナメイで行われると思われる。

加工水産物

1 kg当たり平均単価 463円

ちりめん漁は、昨年と比べて多く値も安定している。煮干は、少々漁があり値は、高値であった。

7月

生鮮水産物

1 kg当たり平均単価 877円

一般近海及び小釣物では、台風の影響で全体の入荷が減少し、品薄高。ハモは、前年並で保合。アワビ、サザエ共に堅調。青物では、夏になり丸サバがメインになり青森千葉の入荷や値も安定していた。マサバは、入荷が安定せず値も高騰、サワラは、地物の入荷が後半に大量の入荷があり値が下落。サゴシは、1 kg程のは、福井からの入荷が安定、値も安定。養殖物では、ハマチ、カンパチ、ブリ3者共値動きなし、相場悪し。ブリ5 kg台は、在池少なく高値傾向。ハマチ、カンパチは、水温が低い為、成長悪い。太物では、北海道、青森から本よこ入荷あるも入荷量少なく2300~2800円。びんよこ鹿児島主体の入荷、魚体小さく600~1100円、キハダマグロ輸入物入荷少なく引き合い強い。

冷凍水産物

1 kg当たり平均単価 891円

夏の需要期になるが、ポイルホタテ生産の半数以上が中国輸出向けで生産され産地在庫少ない。貝柱本操業開始されたが先高感から製品化遅れ相場不透明。サイズも4-5S中心となっている。

加工水産物

1 kg当たり平均単価 479円

ちりめんは、前半と後半で漁があったため、値も高値。煮干は、昨年と同じで漁が少ない。

8月

生鮮水産物

1 kg当たり平均単価 867円

一般近海及び小釣物では、月後半台風等悪天候が続き入荷が少ない。サワラ、サゴシサイズ小さく、ポーズも入荷増、小サイズ多くセリ弱保合、マコカレイ高値安定。青物では、サバは、前半青森、千葉からの入荷が安定していたが浜値の上昇により入荷がなくなり地物のサバの入荷が増え高値ではあるが売れ行きは、よかった。アジは、前月に続き入荷少ない。イワシは、北海道、鳥取からの入荷があった。養殖物では、ハマチカンパチ浜値保合、ブリ浜値上昇。5 kg台在池少ない。売りは、盆期間中は、前年並。それ以外は、引き合い弱い。太物では、本よこ北海道、青森から7~15 kg、2000~2700円/kgで横ばい。びんよこ2~5 kg。千葉・三重・鹿児島より入荷多く400~1000円/kg弱含み。かつをは、気仙沼より3 kgサイズ600~1000円/kg。

冷凍水産物

1 kg当たり平均単価 780円

ロシア産ズワイガニは、中国等の活相場が、強く日本への搬入が激減している。円安傾向為替も影響し搬入価格は、記録的な高値となっている。ロシア産タラバも同じ様な状況であり極端なないもの相場となっている。

加工水産物

1 kg当たり平均単価 532円

ちりめんの入荷は、前年よりすこし少ないが値が例年より高値。

煮干は、熊本の漁が少々あった。

サンマは、漁が少なく高値。

9月

生鮮水産物

1 kg当たり平均単価 777円

一般近海及び小釣物では鯛例年より入荷少なめ、サワラ入荷は、安定。ポーゼ入荷安定し強保合、タコ入荷安定で保合。鱧共同に続き入荷安定保合。青物では、サバは、前半から中頃にかけて入荷数量激減、地物の小さめのサバが出てきたが高値。平アジが前半高値になっていった。サンマの入荷が本格的になり高値を保っている。秋祭りの為の豆アジ小アジの入荷が多い。養殖物では、ハマチ、カンパチ、ブリ浜値変わらず。在池は、昨年と比べて余り気味、売れ行き悪し。太物では、北海道、青森よりめじ、よこ入荷あるも弱保合、高知よりびんよこ小型サイズで入荷多く保合。沖縄産のきめじは、入荷数量多くても引合い強く色よく好評だった。気仙沼かつをは、浜値高騰により売れ行き弱くなった。

冷凍水産物

1 kg当たり平均単価 765円

国内産うなぎは、去年のシラスの不漁から来年夏の玉不足が懸念される。特に大型サイズ。中国産うなぎは、太物サイズが多く小型サイズがコンテナアソート10%~15%と極めて少ない。11月からの台湾シラス漁により相場が変動、収束していくと思われる。

加工水産物

1 kg当たり平均単価 544円

9月は、全国的に漁が少なく値は、高値。

塩さんまは、形は、小さく値は、昨年より高値。

10月

生鮮水産物

1 kg当たり平均単価 760円

一般近海及び小釣物では、サワラ入荷安定、鱧先月に続き入荷安定、ポーゼ入荷安定強保合、足赤入荷増で軟調な動きが続く。青物では、秋祭りがあるので小アジの値が良かった。サンマ、サバ等は、入荷量も少なく値も伸びなやむ。マサバの量少なく丸サバが中心であった。愛媛からのポーゼも例年に比べ少なかった。養殖物では、ハマチ、カンパチ、ブリ浜値、値動き鈍く売れ悪い。在池数昨年比より多い。九州のブリの出荷開始も売れは、悪い。太物では、北海道、青森からのヨコ、アジ日量10本程度入荷あり、1,500~2,000円/kg、ピンヨコは、徳島・高知産の入荷多く弱含む、小型サイズは、値崩れおこす。カツヲ入荷は、極少量で引き合い強い。

冷凍水産物

1 kg当たり平均単価 796円

アフリカタコ原料の状況は、大型サイズがメインでヨーロッパ向けの輸出ばかりで日本搬入は、少なく高値安定。地物タコ原料も夏場の水揚げが少なく品薄で来年春頃には製品の販売が厳しくなる。

加工水産物

1 kg当たり平均単価 542円

和田島ちりめん漁は、コンスタントに漁があり値も安定していた。

数の子は、例年より高く漁が少ない。

11月

生鮮水産物

1kg当たり平均単価 797円

一般近海及び小釣物では、サワラ入荷安定し保合、ハゲ類入荷少なく堅調。ポーゼ入荷安定堅調、フグ類入荷少なく高値、平目、カレイ類入荷あるが前年より小安い。青物では、マサバは、県外からの入荷や価格が安定せず、丸サバは、県内、外からの入荷多く価格は下落、平アジ浜値が安定せず下落が激しい。サンマは、北海道からの入荷なくなり千葉が主流で保合。養殖物では、ブリ、ハマチ類は、浜値下げ気味傾向、売れは、低調。カンパチは、浜値、売り値共に高値安定、在池数昨年より多い。太物では、県南から室戸にかけて定置の本よこ2.0Kサイズ1300~1500円、日帰りのびんよこも2.0K~5.0K 500~1000円/kg かつをは、入荷少なく長崎産良物のみ引き合い強い。キハダ高知釣り物多く弱含む。

冷凍水産物

1kg当たり平均単価 849円

冷凍エビは、年末商戦に向け小型サイズが品薄になっており、相場強含みになっている。インド現地相場も反転しており、ブラックタイガー、バナメイ共に搬入減少傾向。

加工水産物

1kg当たり平均単価 628円

和田島のちりめん漁は、少なく全国的に漁は、少なく値は、高値、煮干も少なく値は高い。

12月

生鮮水産物

1kg当たり平均単価 759円

一般近海及び小釣物では、ポーゼ入荷少なく高値、トラフグ全国的に前年より安値、サバフグ、銀フグ入荷少なく前年より高値、ハゲ類入荷安定保合、アオリ前年より入荷少なく強保合。青物では、ハマチ、ツバスの入荷が多くなり値は、保合。サゴシの入荷が県内外から入荷安定、値も保合、小アジが先月に比べ物にもよるがかなり安くなった。養殖物では、ブリ、ハマチ類は、浜値下げ傾向、売れは低調、カンパチ浜値、売値共に高値安定、水温が高めな為、在池数多い。太物では、本ヨコ、ピンヨコ共に強保合。カツヲもまずまず安定。本ヨコは、長崎からの入荷が多く大きい物は、引き合い強い。小さい物は、品物が多い為弱気配。

冷凍水産物

1kg当たり平均単価 944円

チリ銀鮭は、新物の販売が始まり昨シーズン物より若干の高値、定塩製品価格には、転嫁出来てない状態。今後も原料搬入が本格化し売り圧力が強まってきたが、チリ委託主中心で相場は、横這い。

加工水産物

1kg当たり平均単価 716円

数の子は、数量少なく昨年より2倍ほど高値。

養殖のサケは、多く昨年と値は同じくらい。